

銅イオンによる環境感染管理に関する海外研修報告書

1. 期間 2014年11月15日(土)～11月21日(金)
2. 参加者 東京大学医学部附属病院 藤田烈
国立病院機構西埼玉中央病院 感染症看護専門看護師 坂木晴世
東北大学病院 感染管理認定看護師 池田しのぶ
3. The 9th Healthcare Infection Society 2014(11/16-18)に参加
 - ・ 微生物は病院環境に適応しており、既存対策では病院環境に由来する感染症から患者を守ることができていない
 - ・ 新技術(銅、UV、HPOなど)の導入による、微生物の発育抑制効果が多くの研究で示されているが、感染症の発生を直接抑制する調査報告はまだ少ない
 - ・ 背景として、この種の技術の評価を、創薬領域で実施される臨床試験のような形で行うことが難しいという問題がある。
4. CENTRE HOSPITALIER LYON (リヨン市立病院) I: 2014年11月19日(水)10:00～
Dr. RAPHAELE GIRARD (感染症管理チーム担当医)

リヨンには17病院あり、この病院は5000床を有す。感染症看護師は4名。但しホスピタルを有していないためより深いサーベイランスはこれからと。病院間はネットワークを組んでいて感染情報の共有を図っている。

 - 1) 保菌者情報は、同室の患者や家族に隠さず伝え注意喚起する。(個人情報より感染予防を優先) コントラクトがあった人間にも注意書きを渡しフォローする。
 - 2) 手指衛生が最優先でこれの励行に努めている。病室入口などにアルコール3000本常時配備している。環境表面清浄に関しては、ドアハンドル等の高頻度接触部は看護師が洗浄するが必ずしも徹底されていない。汚染があった場合、その場で直ちに殺菌することになっている。
 - 3) 銅の殺菌特性について文献などで知っているが、コスト面及び十分な効果確認ができていないので、採用に至っていない。(GIRARD 医師)



病床数 1,200床
がん、外科、産婦人科、周産期、整形外科
囚人用の病棟、60%が個室

5. CLINIC DU TONKIN : 2014 年 11 月 20 日(木) 9:00~

Dr. Christelle Kerguelen (感染症担当医)

Lebronze alloys : Alexis Pofilet 氏

患者および医師・看護師が使う全てのドアに銅合金製ドアノブ(Lebronze alloys 社)を採用。1 組 60€程度。手指洗浄は重視し励行しているが、さらにこれで感染予防を高められるので満足している。2017 年に建て替えの計画があるが、その際も導入したいと考えているとのこと。



病床数 : 350床、職員数 : 1500人

当該部門の外来患者数 : 700人/月、手術件数 : 550人/月

6. Medical Centre : 2014 年 11 月 20 日(木) 11:00~

Dr. Zorzi (医師)

Lebronze alloys : Alexis Pofilet 氏

新しい医院開設に伴いドアノブに銅合金製(Lebronze alloys 社)を採用。外来患者にも銅の殺菌性を説明し評判がいい。感染予防を優先して採用したが、本当に良かったと思っています。



7. 感想

フランスでの Cu+普及に関しては、まだまだこれからという印象だった。商品としては、ドアハンドル、ドアノブ中心で Lebronze alloys 社の競合会社が HIS 2014 に出展していた模様。施主(医師)や設計士に銅の殺菌特性及び効果について理解してもらい、採用に持ち込むまで非常に苦労すると Pofilet 氏は言う。